加賀藩御定書卷三

御作事所御定書

一　惣御條目

御作事方萬端念を入、如跡々毎朝早天に出、大工其外出不参等相改候様可申付事。

一、作料銀上中下相改、棟梁之切手に當座奉行加奥書、御作事奉行添書を以、請取可相渡事。

一、宮腰御園・金澤御土藏に茂不有合竹木、少分之儀は會所に相談、大分之儀者對馬・因幡・玄蕃・民部へ申斷、以指圖駒井主水へ申遣可調、松材木・御林之竹御用之節は、同斷山奉行可申遣事。

一、御作事に大工肝煎二人立置、諸事手づかへ不申様可申付事。

朱書。二人增、只今は肝煎四人に成申候。

一、爲御用方々に一人・二人充遣候大工作料之儀、手先之奉行切手之面遂吟味、銀子請取可相渡事。

一、宮腰御園より金澤木藏に取寄申材木、一ヶ月切請取切手・入切手遂吟味、御作事奉行添書調、木藏奉行に可渡置事。

一、破損修理之儀、毎年九月以前仕廻候様に可相心得。附丈木・批板・切くづ・古木等、入札を以拂申儀、落札之面御作事奉行見屆、拂代銀は手先之奉行人より、御土藏に上させ可申事。

一、宮腰御園より金澤木藏に取寄候材木・松材木・御林之竹、并所々御作事遣申人足、木藏奉行手先之奉行、一ヶ月切に切手爲調、遂吟味、御作事奉行奥判を以割場へ遣し可申候。左候得者、重而人拂御算用には不及事。

一、人足無之刻、宮腰其外馬に而材木取寄候はゞ、駄數馬方之切手に木藏奉行・御作事奉行加裏判、代銀請取候様に可仕事。

一、同日用銀之儀、日用頭之切手に、手先之奉行・御普請奉行加裏書遣、代銀請取候様可仕事。

一、御作事場に有合候古木等、御用に遣候分は拂捨之事。

但、新木は不及申、古木に而も切手を以門を可出事。